

平成29年度 第3回 尼崎市社会教育委員会議について

標題の会議が、次のとおり行われましたので報告します。

1 日 時

平成29年9月4日(月) 午後3時から午後4時40分まで

2 場 所

尼崎市教育・障害福祉センター3階 教育委員会室

3 出欠状況(順不同)

- (1) 出席委員 9名
- (2) 欠席委員 3名
- (3) 出席職員 教育長以下8名

4 会議成立の報告

定数12名中9名が出席し、委員の過半数が出席しているため会議が成立している旨を事務局より報告した。

- ・ 教育長の挨拶

5 協議内容(質疑応答)

総合計画に係る社会教育部関連施策の平成29年度前期事業の実施状況について

【02 施策 生涯学習】

委員からの意見等

社会教育・地域力創生事業(生き方探求キャリア教育支援事業)

- ・ 事業実施が下半期に多いという話だが、具体的にどれくらいの回数が予定されているのか。
(事務局) 昨年並と考えており、武庫地区は全小・中学校で、園田地区については全小学校で実施を予定している。その他は各地区ごとに1校ずつ実施する予定。
- ・ その他の各地区1校ずつというのはこれまでは実施していた学校か。
(事務局) 去年は大庄と立花地区で各地区1校ずつしている。キャリア教育は各学校で実施するという位置づけのため、学校から希望がある場合に、社会教育サイドからサポートする手法の一つとして「キャリア教育支援事業」を実施している。よって、実施校は学校との調整結果である。
- ・ 小学校区毎に必ずお話ができる人がいるのか、実績でどういう職業の方が講師をされたのか。
(事務局) 園田公民館では、体育館にいくつかのブースを設け、子どもたちがチームごとに、この中から3~4か所を回る形式で実施した。上坂部小学校では、学校の近くの方の協力を得て、

工務店の方・FMあまがさきパーソナリティ・洋菓子店・銀行・幼稚園教諭・消防署・警察署・弁護士等がブースに入り講師をされた。武庫公民館では講義形式で実施しており、武庫北小学校では電気工事会社の方、南武庫之荘中学校ではフランス料理の料理長（オーナーシェフ）が講師をされた。昨年度は、薬局の方、落語家、新幹線の運転手にお越しいただき、仕事観や仕事の困りごと等について話をしていただいている。

- ・ 地域にモデルケースがあると、子どもたちも「僕も、私もあんな大人になりたいな」と思い、「じゃあ一生懸命頑張ろう」というような気分が高まって良いことだと思う。
（事務局）社会で働いている方々の生の声のため、子どもたちも関心を持って聞き入っており、今後も続けていきたいと考えている。

学社連携推進事業（地域と学校の連携・協働活動事業）

- ・ 平成28年度の地域学校協働本部設置校となる7校はどこか。
（事務局）平成28年度は尼崎北小学校・杭瀬小学校の2校から始め、上坂部小学校・武庫東小学校・武庫の里小学校・立花西小学校・園田北小学校に設置した。平成29年度には、さらに潮小学校、長洲小学校、大庄小学校、園田小学校の4校が追加となった。
- ・ 校名を聞くと、地域的差があり、武庫や園田地区が多く感じるが理由は何か。
（事務局）各校全体に年一回、研修会等を行っており、学校の校長先生、教頭先生にご説明しており、その中で学校や地域にコーディネーター候補者がいるところから順次始めている。この活動は、持続的なものにしていきたいと考えており、学校にも地域にも理解を得て丁寧に進めている状況である。
- ・ 地域学校協働本部の設置は全校を目指しているのか。
（事務局）小学校からになるが、順次拡大していく予定である。
- ・ コーディネーターとなる人材がいる点が、地域学校協働本部設置のキーポイントになっていると思う。今年度設置できているところは、もともと地域やPTA元役員の方など、コーディネーター候補の基盤があったと考える。会議等では、PTAの方で図書ボランティアで関わっていただいている方、登下校の安全で見守りをいただいている方、社協の方...とそれぞれが今までも、それぞれの想いで活動されてきており、コーディネーターの方がつないでいくということに苦労している学校もある。一方でこれを機に、子どもたちや地域の方が学校にきて、過ごせるようなことが何かできないか、できることをそれぞれ提案しようかという話になり、いろいろな意見をいただきながら、何ができるか、どうするかたちでできるか、を探っていこうという動きも見られる。学校施設の構造も重要であり、1階に図書室等があったり、シャッターを下ろして間切り教室をつくれる等、地域の方に自由に出入りしもうらうにはハード面は大切である。

図書館事業「プレママとあかちゃんのための絵本読み聞かせ講座」

- ・ 非常に好評なようだが、人数や参加者の感想など、評価内容はどうか。
(事務局)人数、質ともに好評である。各ボランティア団体がそれぞれの回を担当しているため、回によって特徴はあるが、「いろいろ子育てのことを聞けてよかった」(図書館に)こんな本があるんだな」「赤ちゃんはこういう本が好きなんだな」等アンケートの結果も好評である。人数についても、子どもと一緒に参加するものであるため急なキャンセルもあるが、赤ちゃん室や児童室といった小さめの部屋で開催することで、講義的ではなく、みんなで座ってゆっくりとお話をざっくばらんに聞けると評判である。
- ・ 講師の方は「ジオジオの会」と「ひまわりの会」とあるが、講師をできる方・団体はほかにもあるのか。
(事務局)6団体程あり、後期も開催する予定で依頼している。

としょかん英語学習応援事業(E-きつず)

- ・ 関西国際大学の協力を得て実施とのことだが、関西国際大学と連携しているのはなぜか。
(事務局)関西国際大学の「小学生のための英語学習」の講座の一つである。「地域に出てやりたい」という話があり、教員免許の資格取得を目指している(1~4回生)学生が、先生の指導のもと実施している。
- ・ 他の大学とは連携しないのか。他に協力していただける大学がないか相談したわけではないのか。
(事務局)市内にある同大学からの提案を受け、実施を始めたところである。他大学とも話ができれば、していきたい。

学校開放事業(スポーツ振興課)

- ・ 「夏の小学校のプール開放」は以前のまま続いているのか。
(事務局)今年も実施している。警察からの指導があり、平成27年度に委託事業が中止になったため、支援事業で実施している。委託事業に比べ、プール開放の期間も短くなり、委託事業を行っていたときは両事業合わせて1万人を超える利用があったが、現在の実績は4・5千人になっている。今後は、今年度実施した団体から意見等をいただき年度内に一定の方向を出していきたいと考えている。
- ・ プール開放を実施している学校数は変わっていないか。
(事務局)学校数は変わっていないが、利用者は増えている。実施する団体によっては、短期しかできないところや、10日間実施するところ等がある。監視員の確保等から実施校数の増加は難しいと考えており、見直しをする予定である。
- ・ 規制が厳しくなり、警備業がないとできないという話だが、他市ではスポーツクラブ21等でプール開放をしている話があると聞いた。

(事務局)西宮市のスポーツクラブでは、委託で実施されている。当初、委託に移行するにあたり市と警察・消防が話し合い、運営方法等を確認した上で実施されていると聞いているが、警察の指導に適合しているかは疑問だ。また、スポーツクラブ21には対応できるクラブ・対応できないクラブがあり、尼崎では実施できるスポーツクラブ21(杭瀬・園田・上坂部)で実施している状況になっている。

- ・ プール開放にあたり、設備や構造などクリアしないといけない条件があると思うが、設備が整っている小学校で、プール開放していない学校はどのくらいあるか。

(事務局)更衣室が整っていなくても、自校の児童だけを対象に開放することは可能であり、必ずしも更衣室等が整備されている必要はない。しかし教育委員会としては、なるべく多くの方に来てほしいと考えており、隣の小学校から受け入れるとなると更衣室等が必要になると考えている。

- ・ 今年は、何校でプール開放をしているのか。

(事務局)6校開放している。もともと委託のときに各地区に1校ずつ(立花を除く)実施している。平成29年度実績では難波小学校(中央地区)、杭瀬小学校(小田地区)、大島小学校・浜田小学校(大庄)、園田小学校・上坂部小学校(園田地区)となっている。

- ・ 他市の事例も踏まえて検討してほしい。

(事務局)警察の基準を満たし、かつ安全にできるのか、他市と本市の条件が一致するとは限らないが、検討していく。

- ・ 尼崎も昔は全校やっていたが、事故があってから少なくなってきたのか。

(事務局)そういう経過がある。平成26年度に委託先がなくなった際に、委託を引き受けてくれそうなところ(スポーツクラブ21、子ども会、PTA)と実施のお願いに回ったが、過去の中止になった経過から、安全を確保することが非常に難しく、主催が実施団体になると、市のバックアップや協力があっても、その責任を団体が負うこととなるため、実施を強くお願いすることはしていない。

- ・ 無料でプール開放を実施している理由は。

(事務局)有料がだめだと考えているわけではない。現状として、有料・無料の前に、自主的に実施できる体制が整わないこと、監視員の配置など自主的に実施できる体制が整わないことが課題である。

- ・ 学校開放事業運営の地域への移行でモデル校による試行とは、どこをモデル校としているのか。

(事務局)杭瀬小学校で進めており、スポーツクラブ21・学校共に大まかな了解は得ている。人的な負担等細かい点において調整中であり、整い次第試行したいと考えている。

- ・ 現在一部委託しているシルバー人材センターとの調整はどう考えているのか。
（事務局）現在、シルバーは学校管理と学校開放の2種類の業務を行っている。学校管理業務はスポーツクラブに移行したとしてもシルバーに残る仕事だと考えている。管理要員の配置については学校等と調整をしていく。
- ・ 地域の方々からの相談・要望で、武庫川の河川敷にもある、バスケットゴール（2・3人で遊べるような）を設置してほしい等の要望を聞くが、学校外で地域のスポーツ会員でなくても使えるものはあるのか。
（事務局）武庫川の河川敷に関しては公園維持課が管理している。バスケットゴールは陸上競技場のマラソンゲートにもあり、よくご利用いただいているのを見かけるが、置く場所がないのが現状。

【17 施策 地域の歴史】

委員からの意見等

城内まちづくり整備事業（歴博・文化財担当）

- ・ 寺町から繋がっていく尼崎城の総合整備は重要になると思うが、文化財収蔵庫の整備事業の予算は下りたのか。
（事務局）今年度予算で整備工事の設計を進めており、整備工事予算はこれからである。国の補助事業でもあり、予算の範囲内での整備となる。現在の段階では、概算で10億円程度の計画である。
- ・ 今ある「旧・城内中学校」を壊さず、残したまま改築するということが。
（事務局）構造を変えることは難しいため、建物は現状のまま、中は耐震の関係等から窓があったところを壁に変えるなど耐震補強を行う部分もあるが、現在の間取りのままの改修が中心になっていく。
- ・ 城内のまちづくりにおいて、「寺町とともに歴史文化ゾーンを構成する城内地区…」という城内地区とは、どこからどこまでを指すのか。
（事務局）現在の計画上の城内地区は、実際に城があった北城内・南城内の部分と開明町の五合橋線より東側、南側は43号線、北側は阪神電鉄というエリアが今回の計画地である。
- ・ 城そのものが見える形でない富松城のPRの仕方が難しいと考えるが。
（事務局）平野に戦国時代の遺構が残っているところは兵庫県下でも僅かで、阪神間では富松城跡の土塁は最大規模である。地域の方々にとって、すごく大切な風景、自分たちの心の拠り所であることから、その場所を活かしてまちづくりに展開していく取組を15年余り続けてこられた。そういった意味では、文化財的な価値もさることながら、まちづくりにとっての価値が非常に高い。市内北部に戦国時代の城跡が残っているということもPR効果があると思う。戦国時代の

阪神間を舞台に繰り広げられた戦乱の様子を今に伝えるうえで欠かせない資産として活用できるよう考えていきたい。

- ・ 尼崎の歴史（なぜ尼崎の市外局番が06なのか）等、活かせるものは全部活かしてほしい。
- ・ 富松は地域の方がとても活発で、10月末日を「富松の日」と決めて行事をされている。尼崎城もできるだけ富松城跡の活動のように、地域の方が大切にできるような仕組みづくりが必要と感じる。また、城内、城下町、寺町という言葉が混在すると、どこのことを示しているかわかりにくい方いるので、今後、外から来られた方がわかりやすい案内ができるようにするのも一つの方法。

事務局より

- ・ 平成29年度尼崎市社会教育関係団体等役員名簿、(一社)全国社会教育委員連合からニュースレターと寄付の案内を配布。
- ・ 地域振興体制の再構築に関連した内容について、今後、社会教育委員会議において、ご意見をお伺いしたいと考えており、次回は10月末頃の開催に向けて日程調整をしたい。

以 上